

国語(現代文・古文・漢文) 関西学院大学 全学部日程 (2/1実施) 1/4

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題	試験時間	75 分
-----	--------------	------	------

人間が、「食べる」という営みを通じて外部から取り込む食材や腸内の微生物・細菌類などとともに複数の主体の協働に基づいて、他の生物とともに自然世界の一部をなす、他者性に開かれた存在であることを主張した評論文。問十の選択肢の読み取りはやや難解であったかもしれないが、その他の設問については、しっかりと読解の練習を積んでいる受験生には対応可能であったと考えられる。

<本文分析>

大問番号	一
出典 (作者)	「複数種世界で食べること」(石倉敏明)
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 4200字程度
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	
一	評論	問一	マーク式	標準	漢字の書き取り(4題「高揚」「全貌」「謳歌」「残滓」)	
		問二	マーク式	標準		漢字の読み取り(3題「蛸」「嚙下」「慎ましき」)
		問三	マーク式	標準		脱落した一文を問題文に挿入する問題 ※挿入する部分(第七段落冒頭)の直後の「しかし、だからといって」という表現が手がかりとなる。
		問四	マーク式	標準	語句を空欄に補充する問題	
		問五	マーク式	標準	傍線部の内容を説明する問題 ※食材の他者性が主体の精神と身体の両面に影響を与える点をふまえる。	
		問六	マーク式	標準	語句の意味を選ぶ問題(「酩酊」) ※「酩酊」は、一義的には「イよっぱらうこと」を意味するが、食事の効果に関わる文脈、および「酔い」の症状を考慮した場合には、「ロめまいがすること」を排除しがたい。	
		問七	マーク式	標準	傍線部の内容を説明する問題	
		問八	マーク式	標準	語句を言い換える問題(「禁忌」→「タブー」)	
		問九	マーク式	標準	傍線部の意味を問う問題	
		問十	マーク式	やや難	傍線部の内容を説明する問題 ※「共存」「協働」が「微生物や細菌類」と「宿主」によるものであるという点をふまえる。	
		問十一	マーク式	標準	語句を空欄に補充する問題	
		問十二	マーク式	標準	三つの傍線部を内容に応じてグループに分ける問題 ※①は「考える主体」、②と③は「食べる主体」である点をふまえる。	

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
		問十三	マーク式	標準	語句を空欄に補充する問題 (「常態」) ※ 空欄の後の「繰り返されてきた」「例外なき事態」という表現をふまえ、「平常・普段の状態」を意味する「常態」を選ぶ。
		問十四	マーク式	標準	問題文の内容と合致するものを選ぶ問題 (二つ)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・文脈を的確にたどりながら、本文の論旨を精確に把握できる堅実な読解力を養っておくこと。
- ・設問対策としては、本文の内容に基づいて正解と誤答を見きわめる選択肢問題の練習を十分に積み重ねておきたい。
- ・関西学院大学の入学試験においては、出題数の多い漢字問題や語彙問題で点数を取りこぼさないように、まめに辞書を引いて言葉についての基礎的な知識を養っておくことがきわめて重要となる。

国語(現代文・古文) 関西学院大学 全学部日程 (2/1実施) 3/4

<総括>

出題数 現代文 1題・古文 1題

試験時間 75分

本文は、鎌倉時代の軍記物語である『保元物語』からの出題であった。受験生にとって馴染みのあるジャンルからの出題であり、本文の展開はわかりやすいものであった。設問は基本的な学習を基軸とした文脈上の理解を要求するものから構成されており、受験生にとって学習の成果を測定しやすい問題であった。昨年度と同様に一昨年に見受けられたことわざの語意を問う設問は用意されていなかったが、漢語に関連する設問が見受けられた。本文の分量は前年よりやや増加、総設問数は同じ(前年度も13問)であり、出題の形式は例年通りであった。全体的には本学古文の典型的な出題形式、すなわち、「基本的な知識と読解力を試す」点を踏襲している。なお本文中の和歌に関しては、今年度の冬期・直前講習の「同志社大國語突破テスト」にも同じものが採られている。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	『保元物語・上』 (編者未詳)
頻出度合 ・的中等	頻出
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ やや増加 ・増加) 約1340字(前年約1250字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	軍記物語	問一	マーク式	標準	語句の意味。「踵を継ぎ」「通夜」「候ひける」「事のよし」を問う。「踵を継ぐ」「通夜」は文脈上で考える必要がある。
		問二	マーク式	標準	解釈。「ふけゆくままに静まれば、御心をすまして」を問う。「静まれば」「御心をすまし」に着目する。
		問三	マーク式	標準	主体判定 (二箇所)。「日中過ぐるまでえおりさせたまはず」「『これはいかに、これはいかに』と申しければ」を問う。前者は「権現をおろし奉りしに」を踏まえて、後者は「向ひまゐらせて」との動作の連続に着目する。
		問四	マーク式	やや易	書き付け。「たなごころ」の漢字表記を問う。
		問五	マーク式	標準	現代語訳。「いかでか是非をわかまへんや」を問う。「いかでか」が反語表現であること、「是非」の意味に着目する。
		問六	マーク式	標準	説明。「手に掬ぶ水に宿れる月影のあるかなきかの世にもすむかな」の和歌がどういうことを伝えようとしているかを問う。単なる和歌解釈を問うているのではなく、直後に描写された「明年の秋、必ず崩御なるべし」という権現の託宣にも着目する必要がある。
		問七	マーク式	標準	敬意の方向。「(申さ) せたまひ」が、誰から誰に対する敬意かを問う。
		問八	マーク式	標準	空欄補充。「一千余年の□ふりにたり」を問う。直前にある「春秋」に着目する。
		問九	マーク式	標準	文法。「(願はせたまふ) べけれ」の文法的意味を問う。
		問十	マーク式	標準	解釈。「権現やがてあがらせたまひぬ」を問う。副詞「やがて」の語意、「あがら」が傍線部③直後の「権現すでにおりさせたまひぬ」と照応していることに着目する。問三傍線部Bも同様の表現である。
		問十一	マーク式	標準	空欄補充。「亡き人の□する、その儀式にもことならず」を問う。熊野からの法皇の「御下向」についての描写であることに着目する。
		問十二	マーク式	標準	内容合致。六つから二つを選ぶ。
		問十三	マーク式	やや易	文学史。『保元物語』(軍記物語)と同じジャンルの作品を問う。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・古語と古典文法を押さえたうえで、主体や客体の補充、指示内容の特定などを適宜行いながら、文脈を把握する練習を積むこと。過去問などの演習を通じて養成するとよい。
- ・いろいろなジャンルの文章を読み慣れて、細部の知識にばかりとらわれず、全体的なストーリー展開や作者の評言などを理解したうえで、内容をまとめる練習を積むこと。
- ・古典常識や文学史などについてもしっかり学習しておくこと。
- ・和歌に関しては、和歌が詠まれた状況を読み取ったうえで、修辞の学習も含め、一首全体の解釈などの練習もしておきたい。